

おひさま サタタ

2011



vol.101

6



はいっポーズ!

《温根湯温泉地区・平里》

みお
原谷愛さんと美緒ちゃん

(紹介は2ページです)

特集

- 特別企画 **がんばれ!きたみらい農業**
～市場編～
- きたみらい農業に
エネルギーな仲間が パート2



タマネギ 中耕カルチ

季節の薫り



きたみらい管内のタマネギ植え付け作業が、平年より約10日遅れて終了した。

不安定な天候が続くなか、「明日は晴れでしょう」の天気予報が出ると、生産者は夜明けから日没まで植え付けに励んだ。

苗を植えた後に雨、そして翌日は快晴となると圃場表面が硬くなり、地割れも起し、タマネギ苗の生長が緩慢になる。

ここで重要な作業が「中耕カルチ」だ。地中の通気性を高め、地温を上昇させる効果があり、収穫時の収量や品質を左右する。地味な作業だが、きたみらい産のタマネギを心待ちにしている消費者に応えるためだ。このことが「産地」=「市場」=「消費者」の信頼関係を築く証だ。



【写真は5月27日、端野地区・川向の会田貢さんの圃場で撮影。会田さんが所有するカルチには追肥用のタンクが搭載されています。カルチ作業を進めながら、苗の成長を確認し、成長が遅い箇所には硝酸カルシムの施肥を行っています】

表紙紹介

家族に笑みを

「曇り時々雨」の天気予報を覆す澄み切った青空が広がった5月28日、玄関を開けるとお母さんの後ろからちよっと顔を出して迎えてくれた美緒ちゃんですが、どうやら恥ずかしがりやさんのようです。美緒ちゃんは、この春から温根湯温泉保育園に入園。初めの頃は、家を出ると泣いていましたが、今は、自分から支度をして行くほどに成長しました。保育園では、6月19日の運動会に向けてお遊戯やかけっこの練習が行われていますが、家族揃って応援に行くことを楽しみにしています。

好き嫌いもなく元気に育つ美緒ちゃん、お母さんが作ったカレーライスが大好きです。おばあちゃんの勝枝さんは「農作業で疲れた体も、美緒の顔を見ると忘れてしまうほど、孫って不思議な力を持っていますね」と笑顔で話してくれました。お父さんとお母さんは「元気で優しい子に。そしてあいさつができる子に育ってほしい」と話してくれました。お母さんの愛さん、そして美緒ちゃんの素敵な笑顔を撮ることができました。ありがとう！



【ご家族紹介】
前列左から～おばあちゃんの勝枝さん(58)と美緒ちゃん(3)、おじいちゃん清作さん(61)。
後列左から～お母さんの愛さん(33)とお父さんの義成さん(35)。
原谷さんでは秋小麦、てん菜、てん菜、キャベツ、人参、レタスなど46種作付けしています。

目標実現に 産地と消費地の連携

市場編

「神果の誠意・顧客の満足」を会社理念にしている神果神戸青果株式会社。

第3回目の「がんばれ！きたみらい農業」は、「関西・中四国ホクレン会」の玉葱部会長を務め、同社野菜第2部の平良雄部長にお話しを伺いました。



(株)神果神戸青果

野菜第2部

部長 平 良雄氏

プロフィール

昭和33年7月、兵庫県宍粟市出身。農業高校卒業後、昭和52年4月、神果神戸青果株式会社に入社。

「関西・中四国ホクレン会」の玉葱部会長を務め現在に至る。趣味は山歩き（周年、セリ場で玉葱を磨いている）。

家族は妻と3人の子供。兵庫県神戸市須磨区在住。

いろいろな産地を訪れている中で、北海道の印象と好きな農村風景は

整然と並ぶ タマネギコンテナ

一言で北海道は広しい「大自然」だなと感じます。きれいな水、澄んだ空気、美しい緑、そして広大な北海道の大地に四季おりおりの風景があります。

印象深い風景は秋の収穫で、農家の皆さんが汗を流し、休む暇もなく農作業に励み、収穫されたタマネギがスチールコンテナにいつぱいに入り、整然と並ぶ風景は北海道でしか味わえない光景です。

きたみらい地域は「農業の縮図」と言われるほど、いろいろな作物が生産されていますが、きたみらい農業の印象をお聞かせ下さい

広大な面積と 生産量に驚き

JAきたみらいは「芋・玉」ですね。全国の他産地と比較にならないほどの広大な面積、生産量にはビックリします。

栽培、管理、収穫、出荷がほぼ大型機械化。府県では見たこともなくこれにも驚くばかりです。

他品目の青果物の作付けもお願いしたいですが、きたみらいと言えば「芋・玉」ですから、今以上に高品質な商品作りをお願いします。



当JAの販売高で大きなシェアを占めるタマネギについて、市場側としての感想、あるいは他産地との品質格差などをお聞かせ下さい

安心して販売できる産地

タマネギについては、高品質で安全・安心・安定的な販売から、中卸や小売などは安心して販売が出来ると思われています。

天候にも左右されますが、今後も地域間格差、品質（撰果選別・厳選出荷）の統一をお願いしたいと思えます。

数多くの仲買人がおられる中で、当産地のタマネギに、どの様な印象をお持ちですか

信頼の二文字に多くのファン

神戸市場ではタマネギとレッドオニオンなどを販売しています。

全国トップクラスのタマネギが約8ヶ月のロングランの販売が出来ますので、各仲卸と量販店から「JAきたみらい」信頼」でファンがついていますし、なくてはならない産地として認識しています。

産地として消費者の皆さんに、積極的に取り組むべきことをお聞かせ下さい

試食販売は郷土料理

消費宣伝や試食宣伝、さらに産地をアピールする取り組みも重要だと思います。

タマネギは貴JAの振興会、青年部、女性部が中心に活動されていますが、試食宣伝は、地元の郷土料理を紹介されるのが一番だと思います。

また、商品、料理の紹介、北見の観光地のアピールなども店頭に立つての販売は、JAきたみらい産を知っていただく大きなチャンスだと考えます。今後も、きたみらい産のPRに頑張ります。

玉葱生産者及びJAへの要望などをお聞かせ下さい

適地適作でおいしいタマネギ

全国的に高齢化、後継者不足、人手不足、中国産を中心とする輸入増加など多くの問題がありますが、やはり夏野菜より大産地・きたみらい生産者の皆さまへの期待は大きいです。何かと苦労は多いと思いますが、適地適作でおいしいタマネギを作ってください。

最後に、天候不順でタマネギの植え付けに生産者の皆さんは大変苦労されましたが、そんな生産者の皆さんに激励のメッセージを

有利販売に努めたい

天候不良がここ何年か続き苦労されている中、23年産の定植時期には「またか」と思われた方も多いのではないのでしょうか。しかし、ここから大切なところであり、目標へ向かって産地と消費地が互いに出来ることを取り組みましょう。

一生懸命行ったことに対しては、必ず良い結果がついてきます。そのことについても十二分に理解し、有利販売に努めます。

生産者の皆さまには、体を大切に高品質と安定供給をお願いします。



株神果神戸青果の概要

昭和33年10月8日設立。
代表取締役社長・廣瀬 正行

事業内容

- ①青果物の受託販売並びに買付卸売業務
 - ②青果物を原料とする食料品の加工製造及びその製品の販売
 - ③食料品の輸入及び輸出業務
- ・従業員 203名
 - ・資本金 2億円
 - ・年商 376億円（平成20年度実績）
 - ・住所 神戸市兵庫区中之島1丁目1番1号
TEL 078-671-5516



▲タマネギのセリ準備を行う平部長

特集

きたみらい農業に エネルギーギッシユな仲間が

パート2



経験を重ね

高品質玉葱生産

端野地区・一区

塚本将也さん

酪農学園大学を卒業後、昨年の3月まで5年間、JAこしみにずに勤務していました。いつかは農業を継ぎたいという思

いが心のどこかにあり、昨年の4月に就農しました。約1年が経過し、一連の作業は覚えましたが、まだ分らないことも多いのが現状です。今後も経験を積み重ね、将来は、今よりも高品質の玉葱を作りたいと思います。

そのためにも、親や地域の農家の方々から指導を頂いて、多くのことを学んでいきたいと思っています。

将也さんは、玉葱を作付けする塚本和之さん、ひろ子さん夫妻の長男で、昭和57年6月生まれの29歳です。趣味は野球と最近始めたゴルフ。

4月下旬から5月上旬にかけての天候不順に悩まされながらも、各作物の植付け作業が終了しました。この春から就農した青年の皆さんも、家族と共に心地良い汗を流したことと思います。先月号に引き続き、今月号も11人の皆さんから、これからの抱負などを寄せていただきましたのでご紹介します。



▲ハウス内にロータリーをかける将也さん

現状経営の持続



端野地区・二区

村中 満さん

北見工業大学を卒業し、小樽市内の包装資材メーカーに昨年まで勤めていましたが、父が体調を崩したことを期に、家族の手助けをしなければ

ば」という思いから、就農を決意しました。農業を取巻く情勢は、年々厳しい状況にあり、理想通りの農業経営は難しいと思います。当面は現状の経営を持続させ、美味しいお米や野菜

を作り続けていくことに頑張りたいと思います。そして、青年部の活動や研修会、地域のイベントなどにも積極的に参加して情報交換を行い、他の農家の方々の良いところをどんどん取り入れていきたいと思っています。

満さんは、水稲、大豆、小豆、玉葱、トマトを作付けする村中敦さん令子さん夫妻の長男で、昭和60年5月生まれの26歳です。趣味は家庭菜園。

新作物導入にチャレンジ



端野地区・川向

松下 誠さん

拓殖大学北海道短期大学を卒業後、アメリカに農業研修で1年半留学しました。その後、由仁町の牧場で1

年間働いた後、昨年の5月に就農しました。農業系を学んでいる内に、とてもやりがいのある仕事だと農業の魅力に気づき、就農を決意しました。

就農したばかりで大きなことは言えませんが、将来的には今の作物だけでなく、新しい作物にもチャレンジしたいと思っています。青年部活動などを通して、仲間をたくさん作って情報交換していきたいと思っています。

誠さんは、麦類、てん菜、玉ねぎ、赤玉ねぎ、母球を作付けする松下朗弘さん、明美さん夫妻の長男で、昭和62年3月生まれの25歳です。趣味はパソコン、インターネット。



▲ハウスのビニール外しを行う誠さん



▲精米作業を行う満さん

規模拡大と

野菜栽培の導入

北見地区・川東

小川 圭 祐さん



パソコン系に興味を持ち、情報系の専門学校に進学しました。2年生の春頃に就職を考えるようになった時、いろいろと迷いました。

そんな時、自然に囲まれ広い畑で両親が草取りに励んでいる姿を見て「いっしょに汗を流したい」という気持ちと、「自分の職業は農業だ」と考え、この春、卒業と同時に就農しました。まだ就農したばかりで、分

からない事が多いですが、将来は規模拡大や自分の栽培したことのない野菜を作ってみたいと思います。その為にも、諸先輩から知識や技術など多くのことを吸収し、今後の農業に役立つように学んでいきたいです。また、4HクラブやJA青年部などの行事に積極的に参加し、親睦を深めていきたいと思っています。

圭祐さんは、玉葱、てん菜、小麦などを作付けする小川淳志さん、美代子さん夫妻の長男で、平成2年7月生まれの20歳です。趣味は車カスタム、ドリフト。

将来、目指す目標は、父の様に皆に愛される玉葱農家になることです。JA青年部に入部したので、色々な活動に積極的に参加して、先輩や仲間と交流を図り、たくさんの方を学んでいきたいと思えます。(女性との交流会にも積極的に参加したいです！)

大輔さんは、小麦、玉葱、スイートコーンを作付けする片桐賢一さん、弘子さん夫妻の長男で、平成2年7月生まれの20歳です。趣味は「父との談笑」と「訓子府町内限定ドライブ」。

父のような農業者に

訓子府地区・高園

片桐 大 輔さん



「農業を継ぐ」と思ったのは、高校生の時、父に「大輔に農家を継ぐ気持ちがあれば、父さんは家を建て替えたい」と、声を掛けられたのがきっかけでした。

高校を卒業後、酪農学園大学に通っていましたが、少しでも早く手伝って、両親の力になりたいとの思いから、昨年の秋に就農しました。今はまだ漠然とした考えですが、



▲トラックに乗り込み作業に出掛ける大輔さん



▲タマネギ苗の成長をチェックする圭祐さん

幼い頃から農業という環境に育ち、高校時代から農業に係わる仕事をしたいと思い始め、酪農学園大学に進学しました。卒業後はJAこしみず



地域発展に 頑張りたい

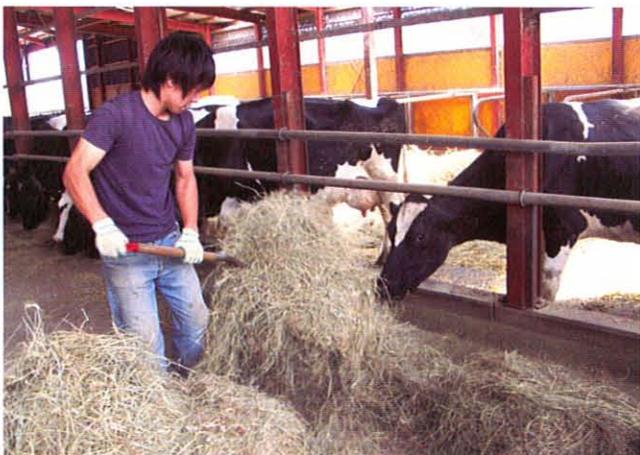
訓子府地区・高園

高倉英介さん

の資材課で経験を積み、この春から就農しました。
現在は、酪農と畑作の複合経営ですが、将来的には酪農業に専念し、規模拡大をしていきたいと思っています

ます。就農して2ヶ月足らず、農業者として未熟なところが多いですが、町内に同級生が大勢いるのでいろいろな意見を聞き、技術と知識を深めると同時に、訓子府町の地域発展のために頑張っていきたいと思っています。

英介さんは、酪農経営の他にてん菜、加工馬鈴薯を作付けする高倉昌勝さんの次男で、昭和60年6月生まれの26歳です。趣味は映画鑑賞とラクビーなど。



▲牛床に寝わらをひく英介さん

今年3月に、道立農業大学校を卒業と同時に就農しました。
農大に進学し、農業を学んでいる内に楽しさや、良い作物を収穫出来る



消費者に 安全・安心な作物

訓子府地区・西富

林 裕太さん

たときの喜びを知り「就農しよう」と決意しました。
将来の目標は、安定した経営を継続していくこと、消費者に安全で安心な作物を届ける農家になることです。そのために必要になるのは、

消費者との信頼関係、さらに地域農家皆さんとの信頼関係を築くことが大切と考えますので、いろいろな場面に積極的に参加し、交流を図っていききたいと思います。

裕太さんは、玉葱、赤玉葱、メロンを作付けする林博幸さん、はる美さん夫妻の長男で、平成2年7月生まれの20歳です。
趣味はサッカーと車。



▲タマネギの成長度合いを確認する裕太さん

規模拡大を

目指して



訓子府地区・柏丘

今野知訓さん

この春、訓子府高校を卒業し、4月から就農しています。農業を継ごうと思ったのは、幼い

時から、毎日のように両親が働いている姿を見つめてきました。その中、中学生の頃から「少しでも手助けをしたい」という気持ちが強くなったからです。農業を始めて2ヶ月余りで、分か

らないことはかりですが、将来的には今よりも経営規模を拡大したいという気持ちを持っています。そのためにも、父から色々な知識を学んでいきたいと思っています。また、今後は、地域の農家の皆さんは勿論ですが、いろいろな方々との交流の輪を広げ、良き人脈を作っていきたいと思っています。

知訓さんは、小麦、豆類、てん菜、馬鈴しょを作付けする今野啓一さんまゆみさん夫妻の長男で、平成4年8月生まれの18歳です。趣味はバスケットボール。

それには、安定した所得の確保が基本ですので、酪農技術の習得と実践、そして土地、施設の基盤固めを注ぎたいと思います。さらに地域行事にも参加し、多忙な中でも、地域の皆さんとコミュニケーションづくりに努めたいと思います。

神奈川県出身の竹内さん(41)は、大樹町のメカファームに勤めていましたが、新規参入を目指して平成21年4月、置戸町に移住。

趣味は、日曜大工や燻製づくりですが、今は休止中で、仕事に邁進しています。

人・牛に

優しい酪農

置戸地区・拓実

竹内 進さん



生活の根幹である「食」に関わり、その生産の一躍を担う酪農業を目指し、平成21年の4月から置戸町に移住しました。町内の大平牧場で1年

5ヶ月の研修を経て、昨年の9月から、JAの組合員となりました。放牧を取り入れ、人も牛も無理のない酪農経営を目指し、仕事にメリハリをつけ、仕事・生活・余暇のバランスを保ちたいと思います。



▲牛舎の清掃作業を行う進さん



▲トラクターを運転する知訓さん

北海道尚志学園高等学校を卒業後、札幌市内で車のガラスを専門に扱うイコマ北海道に勤めていました。還暦を迎えた父は、肉牛と畑作経



畜産と畑作が 融合した経営

留辺蘂地区・花園

藤田 稔彦さん

営に頑張っています。長男として「父の手助けを」したいこと。そして生まれ育った実家の花園地域が好きだったこともあり、思い切ってUターンを決意しました。

就農したばかりで、将来のイメージを描くことは出来ませんが、畜産と畑作を融合した経営を築ければと考えています。そのためにも父や地域の方々指導を仰ぎ、さらに青年部にも加入し、いろいろな知識や技術などを吸収したいと思っていますので、宜しくお願い致します。

稔彦さんは、肉用牛の飼育と秋小麥、てん菜、高級菜豆を作付けする藤田敏秋さん、由美子さん夫妻の長男で、昭和59年11月生まれの26歳です。趣味は映画鑑賞。

酪農技術を極める

置戸地区・川南



中尾 祐貴さん

酪農学園大学を卒業し、この春から就農しました。両親から大学に進学するチャンスをもらい、勉強などを積み重ねた4

年間で農業の大切さを改めて実感し、その一端を担いたいと考えたことが就農した大きな要因です。将来、目指す酪農経営は、限られた農地で高収量、高品質の粗飼料を確保する技術を極めたいと思います。

そのためには、地域内で経営形態が違っても協力し合い、互いがより良い酪農経営と畑作経営に結びつくようにしたいと考えています。祐貴さんは、酪農専門経営を営む中尾英俊さん、のぶ子さん夫妻の長男で、昭和63年12月生まれの22歳です。趣味は歌うことです。



▲タンクから飼料を取り出す稔彦さん



▲乾燥ロールを刻む祐貴さん

播種機 2 台で 人参播種作業

～8月出荷目指して
27日播種～

AINONAI

相内



▲マイティーに乗り、播種作業を行う岩崎さん

イエスクリーン人参の播種作業が最盛期を迎えています。東相内の岩崎幸さんもマイティーに乗り、45坪の播きつけを行いました。

この作業は、市場へ一定期間、一定量を安定出荷するために、相内人参部会が定めた播種計画に基づき、2台の播種機を使って作業をしています。

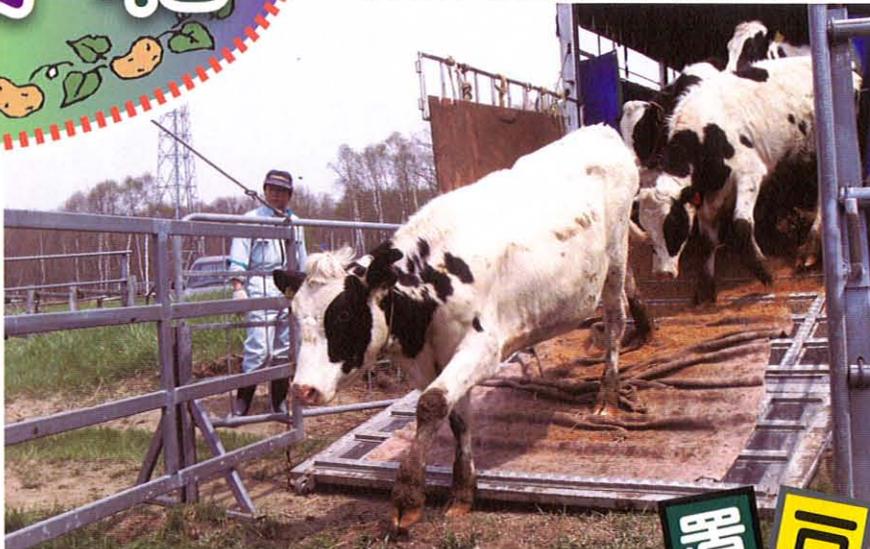
播種は4月26日から始まり、最終は6月上旬までとされ、相内地区全区で約27日作付けされます。

今年は播種時期の悪天候で、生産者の皆さんも苦労されましたが、今後、安定した天候が続くと、8月上旬から収穫が始まり、安全・安心なイエスクリーン人参が消費者に届けられます。

(中川 裕二)



▼トラックから元気よく飛び出し、牧場に入る若牛



OKETO

置戸

モ一最高!と 緑一面の大地に

～釧北牧場に
若牛200頭入牧～

置戸町拓殖の置戸町釧北牧場で5月26日と27日の両日に一斉入牧が行われ、今年は約200頭の乳牛が入牧しました。

各酪農家の牛舎からトラックで搬送されてきた若牛は、耳標番号の確認や消毒などの作業を終えると、青空の下、勢いよく牧野に飛び出して行きました。放された牛は、牧草を

おいしそうに食べ、そして水を飲んだりと約500坪の広大な牧場の自然を満喫していました。

10月下旬まで同牧場で飼育され、栄養価の高い牧草をたっぷり食べ、一回りも二周りも大きくなって、生産者のもとへと戻っていきます。

(酒井 沙織)

鹿食害を防ぐ くくりわな設置

～地域の協力得て
効果を発揮～



有害鳥獣による農作物への被害が増加しており、温根湯地区においても鹿を中心とした農作物の食害が深刻な問題となっています。

北海道猟友会北見支部温根湯部会わな部は、「わな猟免許」を取得した34名で今年の3月に設立し、くくりわなの設置と設置後の見回りなど、地域の協力を得て活動しています。



▲わなの見回りをを行う東海林部会長

わなはワイヤーで作られ、鹿が足を踏み込んだ時にバネが弾いてワイヤーが締まるという仕掛けで、4月下旬から温根湯地区の全域に設置。

東海林部会長は「毎日の見回りなど地域の協力は不可欠。労力など大変な部分もあるが効果は確実にある」と話していました。

(虻川 卓也)



▼北見市場で開かれた目慣らし会



桃太郎トマト 収穫始まる

～甘味と適度な酸味が
消費者に好評～

上常呂特産のトマトの収穫作業が5月中旬から始まり、トマト生産部会（中村剛実部会長）は5月23日、北見市場で「目慣らし会」を行いました。生産者、JA職員、市場担当者12名が参加して、取扱い要領と選別基準を確認しました。

参加した生産者の皆さんは、府県産と上常呂産のトマトを手になが

ら市場担当者の選別注意点や規格分けのポイントなど説明を熱心に聞き入っていました。

同部会の作付け戸数は4戸で、主に「ハウス桃太郎」を3150坪栽培し、10月中旬まで美味しく安全・安心なトマトが消費者の皆さんに届けられます。

(加藤 正人)

笑顔笑顔の かあさんの朝市

～悪天候の中
150人の市民が来場～



▲新鮮な野菜を買い求める市民のみなさん

北見市かあさんの朝市会が5月29日、JAきたみらいセンター事務所の特設会場で始まり、約150人の市民でにぎわいました。

第1回目の開始に先立ち、戸田富美子会長は「消費者の皆さんに会える今日を楽しみにしていた。今年も新鮮な野菜を届けたい」と挨拶。

今年で19年目を迎えた当日は、会

員12人のうち11人が参加し、アスパラガス、レタス、小松菜や山菜、花と野菜苗などを販売しました。

市内花園町に住む主婦は「朝市を楽しみにしていた。農家のお母さんたちが作った野菜は安心して食べられる」と話し、たくさん野菜を買い求めました。

(塩田こず恵)

南北

▼プランターに花を植える女性部のみなさん



KUNNEPPU



45個の プランター花壇設置

～7月頃の
満開時期が楽しみ～

女性部訓子府支部（西森美代子支部長）は5月31日、毎年実施している花壇設置を行いました。

JA事務所前や給油所、資材店舗の前にペコニアとマリンドーナなど約200本をプランターに植え、道行く人の目を楽しませてくれます。

当日は三役と地区長など12名が協

力しあい、土の配合や花植えに約1時間かけて、45個のプランター花壇を完成させました。

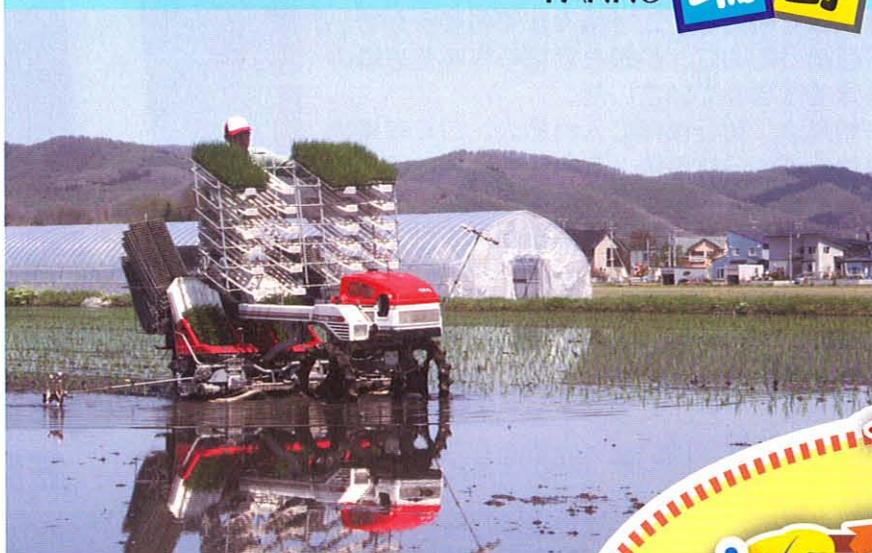
西森支部長は「役員の皆さんと楽しく植えました。花が満開になる7月が楽しみです」と笑顔で話してくれました。

(菅原 明希)

黄金色の 稲穂を期待して

～きたゆきもち
242畝を栽培～

TANNO **端野**



▲田植え作業に励む西川哲平さん

端野地区2区の(有)西川農場は5月24日から田植えを始めました。「きたゆきもち」を4・22畝作付けを予定。後継者の哲平さんは、移植機に苗を積み、準備万端の田んぼに入り手際よく田植えを行いました。端野地区では242畝の作付けを予定しており、今年から全量「きたゆきもち」の栽培となります。

5月上旬からの断続的な天候不順

により、植付け作業も遅れています。当日は気温も上がり、作業は順調に進みました。今年から本格的に始まる戸別所得補償制度により、もち米を取り巻く状況も複雑化していますが、哲平さんは「稔り多い出来秋を迎えたい」と意気込みを話してくれました。

(扇谷 光輔)

東西

▼農園に手で穴を開け、種を植える児童



RUBESHIBE

留辺薬

特産の白花豆 植え付け体験

～小学生児童35人が
農園で体験学習～

北見市立留辺薬小学校の3年生35人は5月23日、同校の農園で留辺薬特産の「白花豆」について体験学習を行いました。同校は総合学習の一環として、体験学習を通じて食や農を考えることを目的に取り入れているものです。

児童は農園の草取り、土起し、肥料撒きを行った後、白花豆を一粒一粒丁寧に植えました。橋本普及員が

「高さ3歳まで成長します」と説明すると、全児童が「おおー！」と大歓声。「芽はいつ出るの?」「豆はいつ採れますか?」などの質問も寄せられました。今後、収穫に向けて児童の手によって管理されていきます。今回の体験学習には北見市、網走農業改良普及センターと共にJAきたみらいも人的支援をしました。

(渡辺 大樹)

思い出の写真

共同籾摺り作業

この写真は昭和20年頃、隣近所の農家4、5件が共同して米の籾摺り作業を行っているところを撮ったものです。

当時は、鎌で稲刈りと二才積みまで各農家が行い、労力不足を補うために、脱穀と籾摺り作業を近隣の農家が共同で行なっていました。

籾摺り作業は、籾を機械に入れる人、ゴミを集める人、稲わらで作られた俵（たわら）に入れる人、農協倉庫まで馬車で運搬する人など総勢6～7人で役割を分担して行なわれていましたが、1日で約1軒分の籾摺りが出来ました。

現在の様にD型の倉庫もなく、雨が降ってくると機械や稲わらにゴザを掛けて、機械の故障や米の品質低下を防いでいました。籾摺り作業が始まると「冬将軍到来か」という季節でもあったことから、雪が舞い散る中でも、白い息を吐きながらの作業もありました。

籾摺り機も手動から自動になり始めた時代に林さんは、「当時は、とても楽になったとみんなで喜んでいただけ、今と比較すると大変な作業だったと、改めて感じる」と、懐かしそうに話してくれました。

(中川 裕二)



端野地区・緋牛内

菊地 澄子さん(38歳)



▲菊地さんが作り上げた数々のエコクラフト作品



きたみらいの
ホープさん

高品質 安定収量

訓子府地区・西富

笠野 真太郎さん(23歳)

真太郎さんは、玉葱、てん菜を作付けしている笠野敏明さん、智恵子さん夫妻の長男で就農して4年目です。

趣味は？

スポーツ観戦とドライブです。年に1～2回はプロ野球（日本ハム）の試合を観戦します。

理想の女性とは？

優しく、気遣いのある人が良いです。

結婚はいつ頃までに？

30歳位までにはと考えています。

休日はどんな事をしていますか？

ドライブや買い物をして過ごしています。

農業に対する抱負を

就農して4年目で、まだまだ未熟です。毎年、安定して良い作物を収穫し、余裕のある生活をしたいです。

(菅原 明希)

7月号の「ホープさん」は、JAきたみらい青年部北見支部の？さんを予定しています。広報編集委員が、突然、取材にお伺いすると思いますが、何卒、ご協力願います。



私の パートナー



今月号の“私のパートナー”は、青年活動で知り合い、09年に結婚。「笑いの耐えない家庭を築きたい」と話す片桐敏史さん、志穂さん夫妻を紹介します。

元気で明るい家庭

置戸地区・秋田

片桐 敏史さん(27歳)

志穂さん(32歳)

Qご結婚されたのはいつですか？

2009年11月です。

Q知り合ったキッカケは？

青年活動を通じて知り合いました。

Q初めて会った時の印象は？

敏史さん「良くしゃべる人だなあ～(^_^)」

志穂さん「なんとなく、優しいなあ」

Q結婚を決意した大きなポイントは？

敏史さん「いっしょにいて楽しいし、しっかりしているところ」

志穂さん「優しいし、行動力があるところ」

Q志穂さんの出身地は？

佐呂間町出身で、漁業協同組合で事務をしていました。

Q子どもは何人？

5人くらい？

Qどんな家庭を築きたいですか？

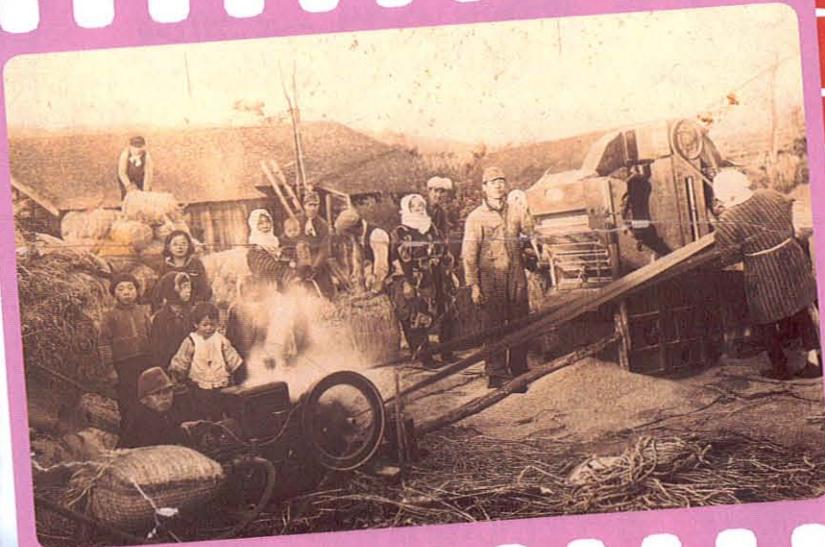
みんなが元気で明るく楽しい家庭。

Q今後の目標、あるいは夢を？

家族みんなが笑いの絶えない家庭が目標です。

※志穂さんに抱っこされているのは、長女の依央(いお)ちゃん、6月17日で満1歳になります。

(酒井 沙織)



【写真説明】

近隣の農家が集まって行なわれた共同の粃摺り作業です。なお、林さんは住宅の屋根にハシゴが架かっている手前で、帽子を被り、首に白いタオルを巻いている方です。

相内地区・美園

林 勝美さん(83歳)



My Taste エコクラフト

菊地さんの趣味はエコクラフトです。

偶然、タウン情報誌にエコクラフト教室開催の広告が載っているのを見つけ、面白そうだと思って、昨年の1月に参加したのがきっかけです。

エコクラフトは、再生紙でできたクラフトバンドを使って行う手芸です。はさみと木工ボンドを使用しロール状の材料を編んでかごを作りますが、なかなか奥が深く、編む力の強弱によって大きさや形が変わり、特に曲線の飾りつけの部分を編み込むのは、難しいそうです。

エコクラフトの魅力を伺うと「簡単な形の籠なら1日程で作ることができますが、複雑な形の籠を何日もかけて作り上げた時は、何とも言えない達成感があります」と菊地さん。

普段は農閑期の冬場を中心に作っていますが、エコクラフト作りがきっかけとなり、知り合いもたくさん増えたそうです。

「これからも無理せず、自分の出来る範囲で続けていきたいと思っています」と笑顔で話してくれました。

(扇谷 光輔)



大きくなったら



ほのぼのの広場



わが家の 愛 アイドル



訓子府地区・北栄
森下大樹くん(1歳7ヶ月)

トーマス大好き!

機関車トーマスが大好きで、「ポッポー」と走らせて遊んだり、DVDを真剣にみえています。保育園に通うお姉ちゃんの愛羽(いと)ちゃんの送り迎えをママといっしょにしています。家に帰ってくると「ねえね〜」とお姉ちゃんの後にくっついて仲良く遊んでいます。食欲も旺盛で、好きな食べ物はイチゴ、チーズ、アイスクリーム、取材時もお茶を飲みながら、ドンをおいしそうに食べていました。お母さんのゆかりさんは、「愛羽も大樹も元気で素直に育ってくれば何よりです」と優しく話してくれました。

大樹くんは、訓子府地区・北栄の森下敏行さん、ゆかりさんの長男です。

(菅原 明希)



上常呂地区・広郷
穴田璃羽くん(8才)
柗心くん(6才)
ひよりちゃん(3才)

カッコいい警察官に

璃羽くん(右)
ほくは大きくなったら警察官になりたいです。制服がかっこいいし、あこがれているパトカーにも乗れ、パトカーの運転席にも興味があるからです。

ほくも警察官

柗心くん(左)
ほくもお兄ちゃんと同じ警察官になりたいです。悪い人をつかまえたり、困っている人を助けたいからです。お兄ちゃんとコンビを組んでやってみたいですよ。

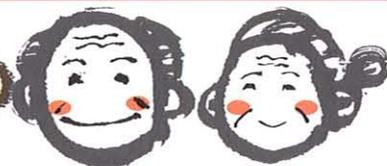
プリキュアに

ひよりちゃん(中央)
わたしは大きくなったら、スイートプリキュアのキュアリズムになりたいです。プリキュアに変身して悪者をやっつけたいです。

玉葱、小麦、てん菜を作付けする穴田惣一さん、優子さん夫妻の仲よし兄妹です。

(加藤 正人)

おらがまちの



おしどり夫婦 結婚して55年



相内地区・西相内
辻本健二さん(77歳)
玲子さん(77歳)

健二さん

留辺薬町泉出身で、学校を卒業後、すぐに就農。当時の農作業は馬が主力で、辻本さんの家には1〜2頭の馬がいました。

「昔は仕事、仕事の毎日で大変だったけど、これが礎になって今がある」と話してくれました。

玲子さん

端野町一区出身の玲子さんは、昭和31年4月に健二さんと結婚。

結婚当初は、「馬の扱いと畑と水田の石拾いが大変だった」、さらに「春から二人で苦労して作った作物が、豊作の秋を迎えた時はその疲れも吹っ飛びました」と懐かしそうに話してくれました。

玲子さんと結婚後、昭和32年に当時では珍しい分家をし、西相内に移りました。分家後の作付けは、ピート、豆、ハッカ、米など約5畝。「毎日毎日、畑で体を動かしていた」と話してくれました。

お二人とも旅行が好きで、現在は海外、国内問わず旅行に出掛けていますが、すでに今年の旅行プランも練られているようです。

(中川 裕二)

まちがいさがし

Bのイラストには、Aのイラストと違う部分が5カ所あります。間違っている部分を右下のイラストの中の数字でお答え下さい。

A



B



5月号クイズの当選者

5月号のまちがいさがしの答えは「3. 6. 8. 9. 11」でした。正解者42名の中から抽選の結果、当選者は次の方々です。尚、抽選はJAきたみらいの西川組合長にお願いしました。

()内は地区名

- ・稲田 雄介さん(温根湯)・及川 一子さん(訓子府)
- ・坂下みちるさん(留辺蘂)・岡嶋 厚子さん(相内)
- ・溝井 鈴香さん(置戸)・田井 愛美さん(上常呂)
- ・小山田 彰さん(訓子府)・中嶋ゆり子さん(北見)
- ・上杉恵美子さん(訓子府)・重富 颯さん(端野)

以上の方々には、(株)清月の白花豆スイーツ「白花菓子」1箱プレゼントします。



応募方法

答えが解った人は、別紙の応募用紙に答え(番号)と広報誌へのご意見・ご感想を記入してFAXでご応募下さい。抽選で10名の方に、JAきたみらいのレトルトカレー「玉ねぎと牛すじカレー」を2箱プレゼントします。

7 月に開催される「ご当地グルメグランプリ北海道」楽しみですね。私もぜひ都合つけて行ってみたいと思いました。それに石北峠からの日の出の新年号、体調を整え、ぜひ実現して下さい。

(留辺蘂地区・匿名希望)

北海道各地のご当地グルメ、食べてみたいですね。石北峠の日の出撮影、11月から準備してきれいな写真に収めてみたいと思います。

お ひさまサラダ100号、おめでとうございます。私たち親子も表紙に載せていただいてから、早7年が経ちました。子供たちも今では、小・中・高校生となりました。これからもたくさん家族の笑顔を観るのを楽しみにしています。

(置戸地区・溝井 鈴香さん)

ありがとうございます。平成16年の6月号で紹介していますが、当時、2歳だった三女の伶ちゃんも9歳ですね。表紙の対象者は大勢いますので、素敵な笑顔皆さんに届けたいと思います。

読者の声

お ひさまサラダを毎月、楽しく読んでいます。たまに、表紙に友だちが載っています。100号目おめでとございます。

(上常呂地区・田井 愛実さん)

ありがとうございます。これからも宜しくお願い致します。

は いっポーズ！全表紙再登場、良かったですね。子どもたち一歩ずつ成長している様子、200号が楽しみです。ずーと続けて下さいね。

(温根湯地区・長谷川和子さん)

200号に向けた101号が発行されました。また、8年4ヶ月を要しますが、頑張りしたいと思います。

ACTION

タマネギ

徹底した肥培管理で

反収5800 kg

端野地区・1区の新田祥見さんは「北はやて2号」「パレットベアー」「オホーツク222」「北もみじ2000」の4品種を11・5畝に作付け。ハウスで丈夫に育てた極早生種「北はやて2号」の苗を4月25日から植え付けを始めました。

天候不順で一時的定植を見合わせましたが5月に入ってから再開。4畝用の移植機を使い、1日2畝のペースで極早生、早生、中晩生種の順で

作業が進められます。

新田さんは「1日でも早く定植を終えたい」と話しながら、「植え付け後は肥培管理を徹底し、10ア当たり5・8トは収穫したい」と目標を話してくれました。

※当JA管内において、今年の玉葱作付面積は4456畝で、25万6千トの生産を計画。



▶4品種のタマネギを11・5畝に作付けする新田祥見さん(5月9日撮影)

水稲

水管理に徹底し

反収510 kg

相内地区・東相内の畑中豊作さんは18畝の面積に「はくちようもち」2割、「きたゆきもち」8割を作付けする水稲専業農家です。

畑中さんは4月21日に種をまき、5月の連休明けに田起し、20日から代かきを始めました。

4月下旬からの雨天や低温で、春作業の遅れが心配されましたが、平年並みの5月27日から、8条田植え

機で移植を始めました。

18畝の田植えを終えた畑中さんは「低温で育苗管理に苦労した。今後は水管理に細心の注意を払い、10ア当たり510kg位は収穫したい」と意気込みを話してくれました。

※当JA管内において、今年の水稲作付面積は863畝(うるちもち)で、4350トの生産を計画。



▲もち米18畝を作付けする畑中豊作さん(6月1日撮影)

多き秋を願って

てん菜

反収5.5トンと
17.8%以上の糖度

置戸地区・幸岡の井上一味さんは、秋小麦、てん菜、食用馬鈴薯、白花豆など27畝を作付けする畑作専業農家。今年のてん菜作付面積は7.7畝ですが、播種を3月12日に行い、苗も順調に生育した5月7日から移植作業を始めました。

2畦用の移植機に井上さん家族が乗り込み、ポット苗をベルトローラーに載せると、自動的に苗が次々と植え付けられていきました。

井上さんは「昨年は高温と湿害で大幅に減収した。今年はこまめな肥

培管理で10^ア当たり5.5トンの収量と17.8%以上の糖度を確保したい」と意欲を示してくれました。

移植作業を終えた生産者の皆さんは、カルチ作業を進めています。天候の回復と気温の上昇を願っています。

※当JA管内において、今年のもてん菜作付面積は3946^ハで、22万5千トンの生産を計画。



▲てん菜7.7^ハを作付けする井上一味さん（5月7日撮影）

Photo スケッチ 稔り

馬鈴薯

適期培土で
反収3.5トン

上常呂地区・広郷の東龍児さんは、秋小麦、てん菜、馬鈴薯、小豆など25畝を作付けする畑作専業農家。

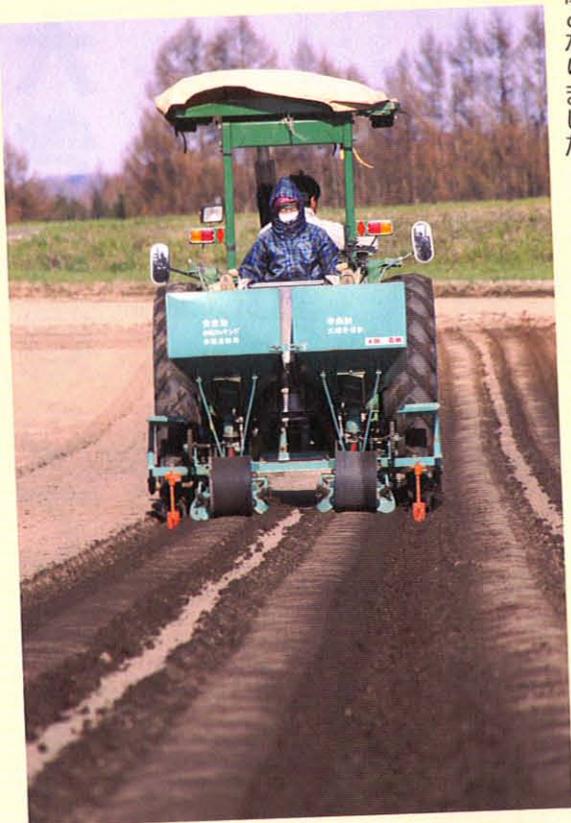
東さんは食用馬鈴薯の「男爵薯」8畝と「スノーマーチ」3^ア、加工用の「きたひめ」1・2畝を作付け。

天候不順で作業がはかどらず、快晴となった5月11日から植え付け再開となりました。

トラクターでけん引するカッティンクプランターのタンクに種芋と粒状複合肥料を入れ、自動的に植え付けていくとローラーで鎮圧した線が畑の上に長く続きます。

東さんは今後の好天続きを願いながら、「平年作の10^ア当たり大コンテナ2.5基は収穫したい」と謙虚に話してくれました。

※当JA管内において、今年の食用馬鈴薯作付面積は1912^ハで、6万3千トンの生産量を計画。



▲食用馬鈴薯など9.5^ハ作付けする東龍児さん（5月11日撮影）

北海道ブラック&ホワイトシヨウ

きたみらい出品牛

好成绩収める

2011北海道ブラック&ホワイトシヨウが5月28日と29日の両日、安平町の北海道ホルスタイン共進会場で行われました。

シヨウには全道各地からホルスタイン種とジャージー種、合せて248頭が出品し、審査員はカナダ・シメックスアライアンス社のプライアン・カースカデン氏。

出品者は大会前日から会場へ乳牛を搬入し、牛の毛刈りをして容姿を整え、真剣な眼差しでシヨウに臨み

ました。

JAきたみらいからは10頭が出品。北見地区の吉野英之さんが出品した2頭が、第4部末経産ミドルクラス、第5部末経産シニアミドルクラス、それぞれ1等賞を受賞しました。

また、ジャージー種の部において訓子府地区の渡辺正昇さんが出品した「グリーンパスチャー MC ヴインディケーション イワテ」がシニアチャンピオンを受賞しました。



▲第4部と第5部の未経産で1等賞を受賞した吉野さん所有牛(中央)と関係者のみなさん



▲ジャージー種の部でシニアチャンピオンを受賞した渡辺さん所有牛(中央)と関係者の皆さん

大きく育つてね!

タマネギをテーマに体験学習

北見市立北光小学校

北見市立北光小学校の3年生98人は5月12日、同校の農園で地元特産のタマネギをテーマに体験学習を行いました。

同校は総合学習で児童に食や農を考えてもらおうと昨年からの体験学習を取り入れました。JAきたみらいもタマネギ苗を提供するなど支援を行っています。

当日は網走農業改良普及センターの植松調整担当係長と山本主査が、



▲学校農園でタマネギの苗を植える児童



▲タマネギの根の成長を調べるペットボトルに土を入れる児童

タマネギの種まきから植え付け作業までを子どもたちに詳しく説明。63平方メートルの学校農園で「オホーツク222」苗を丁寧に植えました。1組の佐藤杏さんは「タマネギ大好き。大きく育つのが楽しみ」と笑顔を見せてくれました。担任の水見晴海先生は「みんなで成長を見守ります。収穫後は給食のカレーライスなどに使い、タマネギ染めも体験させたい」と話してくれました。また、当日行った透明のペットボトルに植えられたタマネギ苗を使って、教室で4人1組となって根の成長過程も記録します。

第4回

理事会報告

●平成23年5月27日(金)

5月27日、午前9時より第4回定例理事会が開催され、報告事項11件、議決事項6件が協議され、原案通り承認されました。

【報告事項】

- ①内部監査（融資）報告について
- ②組合員状況報告について
- ③財務状況報告について
- ④人事の発令について
- ⑤夏期手当の支給について
- ⑥訴訟事案にかかる経過及び結果報告について
- ⑦平成23年度畑作物共済加入状況について
- ⑧作況調査（5月15日）報告について
- ⑨北海道馬鈴薯協議会H22事業報告並びにH23事業計画について
- ⑩平成23年度中古農機・自動車展示即売会の開催について
- ⑪生乳生産状況及び個体取引価格状況について

【議決事項】

- ①出資減口及び持分譲渡について
- ②固定資産の取得及び処分について
- ③夏期地区別懇談会の実施日程について
- ④平成22年度版JAきたみらいディスクロージャー誌の発行について
- ⑤北見市に対する平成22年度銀行縁故債の貸付について
- ⑥平成23肥料年度肥料事業推進方針について

JA共済
優績組合で表彰

平成22年度JA共済優績組合としてJAきたみらいが表彰され、その表彰授与式が5月27日にセンター事務所で行われました。

JA共済連北海道本部・川口副本部長より西川組合長に表彰状と副賞の目録が手渡されました。

6部門ある優績表彰のうち、当JAは「新契約優績表彰 自動車共済・自賠責共済の部」で、この部門は初受賞となり、北海道では6JAが受賞しました。日頃の普及活動の成果が実を結んだ結果と受けとめ、今後も一層、組合員・契約者のニーズにあった保障の提案を心がけ、最良の「安心」と「満足」が提供できるよう取り組んで参ります。



▲川口副本部長(右)より表彰状を受け取る西川組合長

訂正とお詫び

先月号の「おひさまサラダ」で、下記の通り誤りがありましたので、訂正のうえ深くお詫び申し上げます。

■訂正箇所■

- 5ページ 10号表紙写真掲載の氏名紹介で森屋裕美さん⇒森谷裕美さんに訂正
- 7ページ 30号表紙写真掲載の氏名紹介で北口祥夢(しょうむ)くん⇒しょうまくんに訂正
- 29ページ クイズの当選者を紹介している中で豆ふくのオリジナル詰め合せセットを5個⇒1個に訂正

食と農の「今」と「明日」を考え、
役立つ情報を届けます

- 毎日発行、新聞店から配達します(日曜日は休刊)
- 新聞代金1カ月 2,450円(税込み) お申し込みはお近くの地区事務所まで

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS
日本農業新聞

www.nougyou-shimbun.ne.jp

青年部・女性部・フレミズなど

6・7月の主な活動計画

- 6月22日(水) 畑楽クラブ第5回講座 「雑草の種類と特徴」
- 6月23日(木) 24日(金) フレミズ役員視察研修 (岩見沢方面)
- 6月28日(火) 女性部JA常勤役員と意見交換・フレミズJA常勤役員と意見交換
- 6月30日(木) 平成23年度北見地区新規就農者
- 7月7日(木) 8日(金) 交流研修会(北見モイワスポー ツワールド)
- 7月11日(月) 畑楽クラブ第5回講座 「病害虫の種類と特徴」 (札幌方面)
- 7月14日(木) 青年部第6回8支部交流ソフトボール大会



【材料：4人分】

温かいご飯	800g
ナス	3本(300g)
タマネギ	小1個(150g)
セロリ	1本
鶏むね肉	1枚(200g)
トマト	2個(300g)
オリーブ油	大さじ2
オリーブ(ピクルス)	12個
A 松の実	大さじ2
ケーパー	小さじ2
砂糖	小さじ1
こしょう	少々
塩	適量
ワインビネガー	大さじ2

カポナータご飯

【1人分約628kcal】

【作り方】

- ①ナスは2cm角に切り、塩少々をして、水気が出たら拭き、揚げ油(材料外)を160度に熱し、薄く色づくまで揚げる。
- ②タマネギは薄切り。トマトはひと口大に切る。セロリは2cm角に切る。鶏肉は2cm大のそぎ切りにする(塩、こしょう少々振る)。
- ③鍋に、オリーブ油を入れて熱し、タマネギを炒め、鶏肉を炒める。肉の色が変わったら、セロリ、トマトを加え、時々混ぜながら、10分ほど煮る。
- ④③に、ナス、Aを入れ、砂糖、こしょう、塩で調味して、火を止める。ワインビネガーを加えて混ぜる。ご飯に掛けていただく。

メモ

イタリアの家庭料理カポナータをご飯に掛けたらおいしい。ナスをいったん揚げておいたのがおいしさのヒミツ。たくさん作って、2~3日冷蔵庫で保存もできます。



【材料：4人分】

インゲン・きんとき・ヒヨコ豆など	200g
(水煮缶詰)	
タマネギ	1/2個(100g)
セロリ	20cm(50g)
ベーコン	2枚(30g)
サヤエンドウ	10枚(20g)
サラダ油	大さじ1
水	カップ4
A スープのもと	小さじ2
ローリエ	1枚
塩・こしょう	各少々

豆のスープ

【1人分約105kcal】

【作り方】

- ①タマネギは薄切りにする。セロリは斜め薄切りにする。ベーコンは5mm幅に切る。
- ②鍋に油を熱し、タマネギを、しんなりするまで炒める。セロリ、ベーコンを加え、炒める。
- ③サヤエンドウは熱湯で色よくゆでる。斜めに切る。
- ④②に、A、豆を加え、中火で煮る。約10分煮て、塩、こしょうで味を調べ、器に盛り、サヤエンドウのをせる。

メモ

豆をスープにすると、豆そのもののおいしさが味わえます。豆はミックスでも1種類でもよいです。健康のためにも薄味でたっぷりいただきます。

編集後記

- ・6月2日に国会で、菅内閣への不信任決議案が野党3党から提出され、反対多数で否決されました。わが日本の舵を握る政治家の皆さんは、国民に目を向けず「イス取りゲーム」を楽しんでいるように見えてなりません。
- ・東日本大震災で苦しむ被災者救援、福島原発問題、日本経済の建て直し、TPP問題など早急に取り組まなければならないことが山積しています。国民1人ひとりには、「犬と猫の喧嘩」みたいなことは「もう、たくさん」と思っているはず。ぜひ、国民が投じた一票の重みを受け止め、真剣に国政に取り組んでほしいものです。

(堀 仁志)

JAきたみらい概要

(平成23年5月20日現在)

- ・組合員数(正) 1,841人
- ・組合員数(准) 5,992人
- ・組合員戸数(正) 1,261戸
- ・貯金 96,302百万円
- ・貸出金 20,180百万円
- ・出資金 5,082百万円